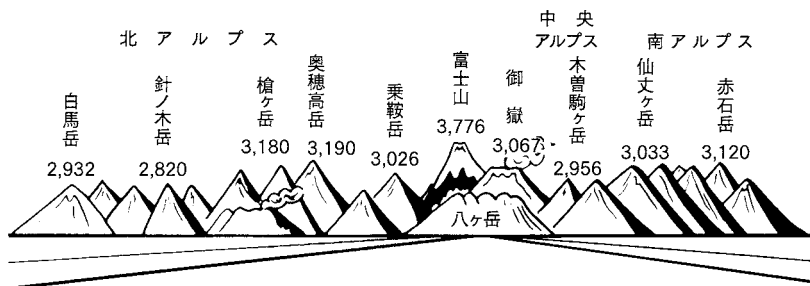


第 65 号

令和元年10月



砂防ニュースレター「長野」



令和元年9月3日に竣工式が挙行された八右衛門沢堆積工 【事業主体：国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所】

目 次

・ 全国治水砂防協会第83回通常総会 開催される 2	・ 着任の挨拶： 伊藤天竜川上流河川事務所長 8
・ 長野県砂防講演会を開催しました 3	・ 着任の挨拶：藤本長野県砂防課長 9
・ 長野県治水砂防協会第81回通常総会を 開催しました 4	・ 異動の挨拶：田下前長野県砂防課長 9
・ 長野県治水砂防協会の皆様へ： 栗原前国土交通省砂防部長 5	・ 砂防ボランティアによる地域での 防災教育事業 10
・ 副会長退任の挨拶：松本前小谷村長 6	・ 砂防ボランティアだより 10,11
・ 着任の挨拶： 永田利根川水系砂防事務所長 7	・ 長野県建設部砂防課人事異動・ 県協会行事等経過・予定 12

全国治水砂防協会第83回通常総会開催される



全国治水砂防協会通常総会の様子



松島貞治氏が功労者表彰を受賞

令和元年5月30日、一般社団法人全国治水砂防協会の第83回通常総会がシェーンバッハ・サボアにおいて会員等939名が出席し国会議員、国土交通省関係者等多くの来賓がご臨席される中、盛大に開催されました。本県からは、藤澤泰彦会長をはじめ総勢94名（会員61名のうち市町村長40名、副市町村長2名）の皆様にご出席いただきました。

総会に先立ち、片田敏孝東京大学大学院情報学環特任教授から「荒ぶる自然災害に向かい合う～平成30年7月豪雨にみるこれからの防災～」と題した特別講演が行われ、平成30年7月豪雨を契機に、行政主導から「自らの命は自らが守る」という住民主体の防災意識の構築が必要となっていること、さらに、これからの地域防災の考え方などについて、ご講演いただきました。

今回の総会では、議案として平成30年度収支決算と役員改選が提案され、いずれも全会一致をもって承認されました。役員改選では、岡本正男理事長が副会長に、大野宏之技術顧問が理事長に就任されました。長野県関係では藤澤泰彦会長が引き続き監事を務められるとともに、宮下一郎衆議院議員が新たに理事に就任されました。

砂防事業に功績のあった方への功労者表彰として、松島貞治前泰阜村長をはじめ、5名の方が受賞されました。

大勢の皆様が全国治水砂防協会通常総会へご参加いただき、この場を借りて御礼申し上げます。



片田敏孝特任教授



理事に就任された宮下一郎衆議院議員（写真：中央）



岡本正男新副会長



大野宏之新理事長



藤澤泰彦会長



栗原淳一砂防部長



大野宏之理事長

長野県砂防講演会を開催しました

全国治水砂防協会の通常総会終了後、県協会は砂防講演会を開催しました。この講演会は、砂防事業の理解を深めるため全国治水砂防協会通常総会に併せ毎年開催しており、94名の方に参加いただきました。

今年は、講師に栗原淳一国土交通省水管理・国土保全局砂防部長をお招きして「雨の季節を迎えるにあたり」と題して、実際に発生した土石流の動画とともに新たな警戒レベルのイメージ等について、また長野県の砂防と赤木先生や全国協会との関わりについて、ご講演いただきました。

さらに午前中に理事長に就任されたばかりの大野宏之全国治水砂防協会理事長に「土砂災害と砂防—災害史と制度の変遷—」と題して、これまでの災害を踏まえた制度改正の変遷や近年の災害の特徴、今後の対策などについて、理事長就任初のご講演を早速いただきました。

その後、永田雅一利根川水系砂防事務所長、赤沼隼一湯沢砂防事務所長、石田孝司松本砂防事務所長、植野利康多治見砂防国道事務所長、伊藤誠記天竜川上流河川事務所長と藤本済長野県砂防課長から話題を提供いただきました。



永田雅一所长



赤沼隼一所长



石田孝司所长



植野利康所长



伊藤誠記所长



藤本済課長



砂防講演会の様子

長野県治水砂防協会第81回通常総会を開催しました

令和元年8月2日、第81回通常総会を長野市内において、多数のご来賓の方々をはじめ、県内市町村長及び関係者出席のもと開催しました。

今年の総会では、砂防事業の推進に永年にわたりご尽力いただいた方に対する長野県砂防事業功労者表彰は、木曾南部直轄砂防推進協議会の会長として、また木曾広域連合会長として御嶽山噴火災害の対応等に尽力された、田上正男元上松町長が受賞されました。

今年は、来賓を代表して、杉尾秀哉参議院議員、三上幸三国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課長、大野宏之一般社団法人全国治水砂防協会理事長、丸山栄一長野県議会危機管理建設委員長、長谷川朋弘長野県建設部長の皆様からご祝辞を賜りました。

議事では、平成30年度事業報告及び歳入歳出決算報告、令和元年度事業計画・収支予算及び任期満了に伴う役員改選が審議・可決されました。新たな役員体制は、藤澤泰彦会長をはじめ現役員に加え、下川正剛白馬村長が副会長に、中村義明小谷村長が理事に就任されています。

通常総会終了後に行われた砂防講演会では、総会に続き三上砂防計画課長、大野理事長から砂防行政に関する最近の話題や土砂災害と砂防に関するトピックスについてご講演をいただきました。

さらに、萬徳昌昭富士川砂防事務所長、赤沼隼一湯沢砂防事務所長、石田孝司松本砂防事務所長、植野利康多治見砂防国道事務所長、菊池五輪彦天竜川上流河川事務所事業対策官及び藤本済長野県建設部砂防課長の皆様からも最近の話題を提供いただきました。

お忙しい中、大勢の皆様にご出席いただきまして、この場をお借りして御礼申し上げます。



藤澤泰彦会長のあいさつ



砂防功労者表彰を受賞された田上正男氏



杉尾秀哉参議院議員



三上幸三砂防計画課長



大野宏之理事長



丸山栄一委員長



長谷川朋弘建設部長



総会の様子

長野県治水砂防協会の皆様へ

前国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部長 栗原 淳一



7月9日付で国土交通省を退職しました。長野県治水砂防協会の皆様には長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。感謝申し上げます。

私は平成19年度から2年間、長野県に砂防課長として出向し、多くの方と知り合い、たくさんの現場を見させていただきました。私が言うまでもなく日本の砂防は長野県の砂防が先頭を走り、全国を引っ張ってまいりました。その長野県で勤務できたことは、代え難い経験と勉強になりました。

皆様へのお礼の代わりに、長野県は大したもんだと私が思ったことを幾つか書きます。

- 1) みんなが前向き、積極的でした。土砂災害のこと、砂防事業に対して、深い考えを持ち、新しい取り組みをされた。

全国の土砂法の指定を引っ張ったのは長野県です。

- 2) 先輩が後輩に技術や技術者としての心構えを伝承、教えていること。

砂防は、現在も若手技術者の勉強会をしているようですが、人材不足が進むなか最も重要なテーマに取り組み、その成果がじわじわと出てくると期待します。

- 3) とにかく飲み会が多い（東京で毎年春と秋に行う協会の懇親会は、度肝を抜かされます（笑））。砂防スキー大会は今もやっている。

砂防課は、毎朝全員が立って今日の業務予定を口頭で説明していました。これらに共通しているのはコミュニケーションを大事にし、そのための機会を絶えずつづけていることの表れです。

長野県の砂防は、直接的な事業だけではなく、付随する地域の振興にも相当な配慮を行ってきました。水溜堰堤、工事中道路の活用などなど普通は躊躇することを正面から受け止めて行ってきました。人口減少が進むなか、この心構えはとても大切なことになってくると思います。維持管理技術も大事になりますが、3つある砂防事務所が中心になってこれからの新しい時代の砂防を作っていただければと思います。

繰り返しですが、日本の砂防の先頭を長野県は走っていますので。



副会長退任の挨拶

前長野県治水砂防協会副会長

前小谷村長 **松本 久志**



4月26日付をもって村長を退任し、長野県治水砂防協会の副会長も退任いたしました。8年間、長野県治水砂防協会の会員として、監事や副会長として会員の皆様にお世話になり感謝にたえません。

小谷村の住民として考えたとき、村は糸魚川－静岡構造線の上に位置し、豪雪という気象条件や急峻な山岳地形に加え脆弱な地質が広く分布しているため、平成7年の豪雨災害のように土石流、がけ崩れ、地すべりといった様々なタイプの土砂災害や雪崩災害を過去幾度となく被ってまいりました。加えて、神城断層地震を起因としたがけ崩れや地滑りなども経験しています。このように災害の多い村、過疎化の進む村ですが、現在も3,000人に近い住民が生活しています。

言葉を変えますと、この土地で人々が生活していくかぎり、土砂災害は克服しなければならない自然災害であり、砂防事業など土砂災害から住民を守るための事業が必要であり重要なことを身に染みて感じております。そして長い年月をかけて行われてきた、国や長野県の砂防事業、治山事業などのハード対策や、土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報などソフト対策により小谷村住民の生活が守られているのです。このことは長野県内の多くの市町村に当てはまることと考えます。

今年もまた、地球温暖化の影響が巨大台風やゲリラ豪雨などの異常気象により災害が多発し生命や財産が失われ、住民の生活が脅かされていますが、地方の人口減少に歯止めをかけ、地方に人を呼び戻すためには、まず地方が安全で安心して生活できる場所であることが不可欠であると考えています。私自身は一個人として、長野県砂防ボランティアの一員としてささやかな活動をしてまいりますが、地域の安全・安心を確保するために、砂防事業の促進や防災意識の啓発・向上のために、長野県治水砂防協会の積極的な活動をお願い申し上げますとともに、協会の益々の発展を祈念し退任の挨拶といたします。

大変お世話になりました。ありがとうございました。



多くの砂防施設が整備された小谷村では今年も「砂防ダム巡りツアー」が行われました

着任の挨拶



国土交通省 関東地方整備局 利根川水系砂防事務所
所長 永田 雅一

4月1日付けで関東地方整備局利根川水系砂防事務所長に着任しました永田雅一（ながたまさいち）です。

長野県治水砂防協会の皆様には、平素より浅間山の直轄火山砂防事業をはじめ、利根川水系砂防の事業推進にあたり、ご支援をいただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

また、信州の皆様には以前より大変お世話になっております。平成4年の犀川砂防事務所及び平成5、6年の松本建設事務所在職中も大変お世話になりました。3年弱の長野県居住中に冬のスキーから温泉、花の名所、蕎麦と長野の魅力を満喫しましたが、まだ行けていない所もあり、信州は広いなとつくづく感じております。今後とも信州を体いっぱい感じていきたいと思っておりますので何卒よろしくお願い致します。



浅間山火山砂防促進期成同盟会設立総会（令和元年5月）



施工中の蛇堀川堰堤（小諸市）（令和元年9月）

利根川水系砂防事務所は、群馬県の利根川上流域の砂防事業、藤岡市譲原地区での地すべり対策事業及び長野県と群馬県に跨がる浅間山の火山砂防事業を実施しております。

浅間山の直轄火山砂防事業は、平成24年度に着手し噴火後の土石流と融雪型火山泥流を対象に長野県側では8溪流に砂防施設を整備予定です。現在、小諸市の蛇堀川と軽井沢町の濁川で堰堤工事を軽井沢町の千ヶ滝西沢と大窪沢川で準備工事等を実施しております。また、本年5月には、関係市町、長野県等の方々で小諸市長さんを会長とする浅間山火山砂防促進期成同盟会を設立していただきました。ご支援ご協力を賜りました方々に厚く御礼申し上げます。

浅間山は、有史以来多くの噴火を繰り返しており、20世紀以降でも活発に活動しています。最近では、本年8月7日と25日に小規模な噴火が発生しました。

8月7日の噴火では、噴火警戒レベルが3に引き上げられ当事務所でも監視カメラ等による監視、夜明け早々からのヘリコプターによる状況確認や現地での降灰調査等を実施しました。幸いにも目立った被害等はありませんでした。夜間の噴火でもあり、監視カメラや観測機器の重要性を改めて感じた事象でありました。

今後ともソフト対策として、監視カメラや情報網の整備に加え、積雪深度計や降灰量計等の整備を進め、自治体の皆様や地域の皆様に情報提供を行う支援を進めてまいります。

最後に、浅間山の活動に注視し、地域の方々と連携しながら、地域の安全・安心の確保と地域活性化に資する施設整備を進めてまいりますので、治水砂防協会の皆様には引き続きご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

着任の挨拶

国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

所長 伊藤 誠記



4月より中部地方整備局天竜川上流河川事務所長に着任しました伊藤と申します。

長野県治水砂防協会の皆様方には、平素より当事務所管内の直轄砂防事業の推進にあたり、力強いご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

私と長野県の関わりは、小学生の頃、キャンプで駒ヶ根市を訪れ、これまでに見たことのないアルプスの風景や気候、豊かな自然（街灯に集まる虫の数）に衝撃を受けたことに始まります。その後、国土交通省に入省して3年目に、小谷村の姫川砂防事務所に勤務させていただきました。職員や受注者の皆様のご指導を受けながら、調査・設計・工事発注・監督全てに携わらせていただいたことが、私の技術者としての原点です。このたび、天竜川上流河川事務所勤務となり、長野県の皆様に恩返しができることを大変うれしく、光栄に感じております。どうぞよろしく願いいたします。

天竜川上流河川事務所は、中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷で、河川・砂防の各種事業や行政サービス、大規模災害への備え等に取り組んでいます。直轄砂防事業は天竜川支川の三峰川、小渋川、太田切川、中田切川、与田切川、片桐松川、新宮川、遠山川の流域で、直轄地すべり対策事業は此田地区（飯田市）で実施しているほか、今年度からは新たに天竜川中流地区地すべり対策事業を開始しました。地すべり地形が集中する愛知・静岡県境の天竜川沿川では、過去にも大規模な地すべり災害が発生しており、地すべり土塊が天竜川を堰き止めると、上下流に甚大な被害が発生すると想定されています。長野県と連携し、集中的な対策に取り組んでまいります。

天竜川では、過去、昭和36年の大規模な土砂災害・洪水災害、戦後1位となった昭和58年の洪水災害、近年では平成18年7月の豪雨災害など、たびたび水害・土砂災害が発生しています。加えて近年では、全国的に猛烈な豪雨などの増加に伴い平成30年7月豪雨のような甚大な災害が発生するなど、土砂災害の発生件数なども増加傾向にあり、治水砂防対策を加速していくことはますます重要になっています。

また、昨年、前述の7月豪雨などにより、土砂災害警戒区域や土砂災害警戒情報など、土砂災害の危険のある場所や時期、さらには避難勧告などを適切に発表したとしても、避難を躊躇し災害に遭遇してしまう住民の方が一定数存在するという、我々行政にとって困難な課題に直面した年でもありました。土砂災害対策は、これまでのように工学的な知見をもとに施設整備や危険区域の設定をすることに加え、住民の心理や行動を踏まえて総合的に対策を行わなければ、被害を根絶させることは困難であることが改めて突きつけられました。

これらの課題に対し、今ほど協会会員市町村、長野県、国土交通省が情報を共有し、連携することが求められているときはないと考えます。協会会員市町村や長野県の皆様と協力し、それぞれが持つ情報を共有・総合して、被害を抑制・軽減するための方策を考え、適切な対策をとってまいりたいと思います。

今年も全国で災害が多発し、天竜川上流河川事務所でも他県へ緊急対策の支援を行うとともに、豚コレラや水難事故等に対しても保有する車両・機械等により支援を行っています。水害・土砂災害に限らず、支援が必要な事象等がありましたら、遠慮なくお声がけいただければ幸いです。最後になりましたが、皆様のますますのご健勝と地域の発展をご祈念申し上げ、着任の挨拶とさせていただきます。

着任の挨拶



長野県建設部 砂防課長 藤本 清

この4月から田下昌志課長の後任として着任いたしました。どうぞよろしく願います。昨年度は、建設部政策課技術管理室で、県が発注する建設工事等の設計・施工、積算に関する基準の運用や入札制度の検討、建設工事の生産性向上や担い手確保に関する取組のお手伝いをさせていただきました。

県砂防課での勤務は3度目となり、砂防事務所勤務と合わせ、砂防事業に直接従事するのは12年目となります。

近年、局所的豪雨の増加などにより雨に係る災害が激甚化し、土砂災害の被害規模も増大しています。昨年は平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震等により全国で3,459件の土砂災害が発生し、161名の方がお亡くなりになる未曾有の事態となりました。犠牲になられた皆様のご冥福をお祈りするとともに砂防等事業により県民の安全・安心を守る責務の重大さを改めて認識したところです。

長野県では、平成30年を初年度とする総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」に基づく政策を実行しています。砂防等事業は政策推進の基本方針のうち「いのちを守り育む県づくり」の中でも「県土の強靱化」を柱としてハード対策とソフト対策両面から土砂災害対策を実施しています。具体的には、昨年度の災害を受け全国で進められている「防災・減災国土強靱化のための緊急3か年対策」による「防災基盤」を守る砂防等工事を前倒しで実施しています。また、災害時の適切な避難行動によって「ひとりひとりの命」を守るため、災害を我が事として捉えられるよう、住民参加型による地域防災マップについては、危機管理部及び「災害時支えマップ」を所管する健康福祉部と連携し、相互に関連したマップの整備を進めます。さらに土砂災害に精通した長野県砂防ボランティア協会会員の皆さんを防災教育の講師として派遣する「赤牛先生派遣事業」今年度から新たに始めました。協会員の皆様におかれましては、これらの取り組みにご理解をいただくとともに、積極的なご活用をお願いいたします。

これからの事業を円滑に進めるためには、予算確保に向けた取り組みを展開することは元より住民の皆様や市町村、県の関係部局が連携し、きめ細かく情報を共有していくことが重要です。災害の時代とも呼ばれる平成から令和を迎え「いのちを守り育む県づくり」を推し進め、豊かな自然環境を有する長野県で誰もが土砂災害に対して正しく警戒しつつ、安心して過ごせる生活を次世代に継承するため、砂防課員一丸となって課題に取り組んでまいります。

引き続き、市町村長さんをはじめ、関係の皆様方のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

異動の挨拶



前長野県建設部 砂防課長 田下 昌志

砂防課で2年間大変お世話になりました。皆様とともに県の土砂災害対策の進展に取り組めたことをこのうえなく嬉しく感じております。数次にわたり発生した飯山市出川の土石流では、地元住民の皆様をはじめ、市、国など関係の皆様方の強力な連携により、警戒避難の体制が早期に敷かれ、田畑への被害は生じてしまったものの、人への影響は、最小限にとどめられたものと思っております。砂防えん堤によるハード対策もご関係の皆様様の様々なご苦勞の中、早期に完成し、住民の皆様方の安全・安心の確保はもとより鉄道や道路での輸送の

完全化につながりました。

気象の変動が著しくなってきた昨今、いつでもどこでも悲惨な災害が発生する可能性が高まっています。砂防が従来から築きあげてきた地域の皆様やボランティア、建設業、そして、市町村、国、県のつながりを今まで以上に大切に、みんなで災害をしっかりと伝承しつつ今後備えてまいりますと考えております。今後とも“つながり”をよろしく願い申し上げます。長野県治水砂防協会をはじめ、ご関係の皆様方の益々のご発展を祈念し、異動にあたってのご挨拶といたします。

【新規事業】砂防ボランティアによる地域での防災教育事業（赤牛先生派遣事業）

災害の激甚化に伴い、住民の命を守るための警戒避難体制強化が課題となっております。長野県では令和元年度新規事業として「自らの命は自らが守る」意識を持つことを目的に県内各地の公民館等にて防災教育事業を実施します。県内全域に在住する砂防ボランティア協会員の皆さんを“赤牛”先生として、地域の災害特性、災害伝承を身近な教訓として継続的な防災教育を展開します。

7月30日生坂村での開催を皮切りに飯山市、中川村などで実施。現在延べ19箇所にて、防災教育を実施し、以後も続々と開催予定です。

赤牛先生とは……

各地に語り継がれる「赤牛伝説」は、その地域特有に災害への忠告であると学術論文を参考に、防災教育の講師を「赤牛先生」と名付けました

（長野県立歴史館長 笹本正治氏の論文より参照）



《砂防ボランティアだより》

NPO法人長野県砂防ボランティア協会

●NPO法人として活動を多様化します

NPOの法人化に向けては、昨年度に設立総会を開催し、多くの協会員の方からNPO設立の賛同をいただいたところです。その後、平成31年4月19日に「NPO法人長野県砂防ボランティア協会」として設立されました。協会の法人化という大きな節目を迎えたところですが、これまでの活動の精神をしっかりとNPOに引き継ぎ、地域の安全・安心のために、引き続き貢献してまいります。

これまでの主な経緯	
H 8.11.19	長野県砂防ボランティア協会設立総会開催
H21. 1.14	土砂災害時等における緊急応援に関する協定を知事と締結
H24. 6. 6	土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣）受賞
H24.11.12	土砂災害防止活動表彰（長野県知事）受賞
H27. 3.27	土砂災害防止活動表彰（長野県知事）受賞
H28. 6.21	土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣）受賞
H28. 9.12	防災功労者内閣総理大臣表彰受賞
H30. 6.14	NPO法人長野県砂防ボランティア協会設立総会開催
H31. 4.19	NPO法人長野県砂防ボランティア協会設立

●防災教育事業（赤牛先生）が始まりました



赤牛先生の様子

今年度より、長野県と委託契約を締結し、防災教育事業（通称：赤牛先生）が始まりました。

過去の土砂災害の知識が豊富な協会員を赤牛先生として地域に派遣し、体験談等を通じて災害の伝承することにより、地域の防災力強化に努めております。始まったばかりの事業であり不慣れなところもありますが、実施後のアンケートではおおむね好評をいただいているため、今後もよりよい防災教育ができるように、引き続き関係機関等と連携を深めてまいります。

●定期総会が開催されました

令和元年6月13日に長野市生涯学習センターで、「令和元年度NPO法人長野県砂防ボランティア協会」定期総会及び講習会が開催されました。総会には347名（うち、委任状207名）の協会員が出席し、平成30年度の事業報告、会計報告及び令和元年度の事業計画等が承認されました。

講習会では、2名の講師の方から講演をしていただきました。藤本済様（長野県建設部砂防課長）からは、「地域防災力の強化に向けて～赤牛先生への期待～」と題して、これまでの防災意識及び避難行動等の課題や、当協会が受託している防災教育事業について、今後の展望等を分かりやすくご説明いただきました。田中里佳様（国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所長）からは、「水辺がうみだす地域の可能性」と題して、田中様がこれまで携わってきた「ミズベリング・プロジェクト」についてご講演をいただき、水辺が創出する地域の賑わいについて理解を深めました。



内山理事長による挨拶

●危険箇所点検パトロールを実施しました



危険箇所点検パトロールの様子

毎年、6月の土砂災害防止月間にあわせ、建設部現地事務所等と合同で土砂災害危険箇所や砂防施設の点検パトロールを実施しています。今年度は13建設事務所及び3砂防事務所から派遣要請があり、警察署、消防署、関係市町村、地方事務所及び自治会代表者の方々と点検を実施しました。

点検には、土砂災害の専門的な知識や経験が必要であり、これまでの経験を生かせる当協会員の参加が重要となっています。

●歴史的砂防施設の維持管理活動と薬師沢石張水路工登録有形文化財10周年

例年、当協会では、関係機関や地域の皆さんとの協働による草刈り及び砂防施設点検を実施しています。今年度も、小川村薬師沢（登録有形文化財）、松本市牛伏川（重要文化財）及び千曲市荏沢川（登録有形文化財）を対象に実施しました。

令和元年5月23日には、小川村主催による「薬師沢石張水路工登録有形文化財 登録10周年記念式典」が開催されました。薬師沢の文化財登録の際には、申請に必要な資料を作成するために、当協会が夏季の現場清掃や施設の掘り出しを実施したところであり、維持管理活動にも毎年取り組んでおります。今後も、関係機関や地域との協働により、歴史的砂防施設の維持管理活動に取り組んでまいります。



中学生も参加した草刈り（薬師沢）

●事務局へのご連絡

地域の防災活動などで当協会員の派遣を希望される方は、NPO法人長野県砂防ボランティア協会事務局（住所：長野市吉田4-7-3 電話：026-252-6022）まで、お気軽にご連絡ください。

平成31年4月 長野県建設部砂防課・人事異動

◎転入

砂防課長へ

藤本 濟 (技術管理室長)

企画幹兼地すべり係長へ

坂口 一 俊 (松本建設事務所)

課長補佐兼調査管理係長へ

青柳 孝 博 (飯田建設事務所)

調査管理係 担当係長へ

河野 義 隆 (大町建設事務所)

調査管理係へ

夏目 明 歩 (伊那建設事務所)

課長補佐兼砂防係長へ

藤井 隆 男 (北信建設事務所)

砂防係へ

小松 美 緒 (国土技術政策総合研究所研修派遣)

砂防係へ

北原 和 樹 (伊那建設事務所)

地すべり係 担当係長へ

鈴木 祥 一 (松本建設事務所)

地すべり係へ

諏訪 有 祐 (国土交通省研修派遣)

◎転出

建設技監へ

田下 昌 志 (砂防課長)

千曲建設事務所長へ

細川 容 宏 (企画幹兼地すべり係長)

安曇野建設事務所 維持管理課長へ

坪田 浩 昭 (課長補佐兼調査管理係長)

木曾建設事務所 整備・建築課へ

細川 盛 樹 (調査管理係担当係長)

松本建設事務所 奈良井川改良事務所へ

山口 有 理 (調査管理係)

上田建設事務所 整備課へ

西澤 賢 (課長補佐兼砂防係長)

松本建設事務所 計画調査課へ

山田 晃 (砂防係)

大町建設事務所 整備・建築課へ

丸山 秀 司 (砂防係)

伊那建設事務所 整備課へ

池田 誠 (地すべり係)

広島県 (東部建設事務所三原支所) へ (自治法派遣)

飯島 良 和 (地すべり係)

長野県治水砂防協会 2019年行事等経過・予定

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 2月14日(木)～15日(金) | 第59回砂防および地すべり防止講習会：砂防会館別館 |
| 5月30日(木) | 一般社団法人全国治水砂防協会第83回通常総会：砂防会館別館 |
| 〃 | 長野県砂防講演会 |
| 8月2日(金) | 長野県治水砂防協会第81回通常総会：メルパルク長野 |
| 〃 | 長野県砂防講演会 |
| 10月24日(木)～25日(金) | 第8回砂防現地視察と討論会：広島県呉市 |
| 11月19日(火) | 全国治水砂防促進大会：砂防会館別館 |
| 〃 | 長野県治水砂防協会要望活動：衆・参議員会館、国土交通省、財務省 |

●第65号 編集・発行 長野県治水砂防協会 〒380-8570 長野市大字南長野幅下692-2 長野県庁砂防課内
TEL：026(232)0144 FAX：026(233)4029 E-mail：n-sabo@sky.plala.or.jp